

# 第1章













## ガイドラインの基本方針

- 1 調布らしい景観と色
- 2 市が目指す景観まちづくり
- 3 色彩を活用した景観づくり

# 第1章 ガイドラインの基本方針

## 1 調布らしい景観と色

ここでは、市内各所の調布らしい景観の写真とその景観を彩る主な色を紹介しています。これらの色を踏まえ、調布らしい景観が引き立つ色彩計画について考えましょう。

 <p>多摩川</p>	<p>空の色</p> <p>水の色</p> <p>芝の色</p>	 <p>田んぼの稲刈り</p>	<p>稲の色</p> <p>稲の色</p> <p>土の色</p>		
 <p>深大寺通りの店舗</p>	<p>土壁の色</p> <p>木材の色</p> <p>葉の色</p>	 <p>多摩川沿いの桜並木</p>	<p>桜の色</p> <p>芝の色</p> <p>空の色</p>	 <p>青渭神社の神木</p>	<p>幹の色</p> <p>幹の色</p> <p>紙垂の色</p>
 <p>サルズベリ(市の花)</p>	<p>花の色</p> <p>花の色</p> <p>葉の色</p>	 <p>甲州街道沿いのケヤキ並木</p>	<p>葉の色</p> <p>葉の色</p> <p>幹の色</p>		
 <p>住宅地周辺の農地</p>	<p>土の色</p> <p>作物の色</p> <p>作物の色</p>	 <p>茅葺屋根</p>	<p>茅の色</p> <p>茅の色</p> <p>土壁の色</p>	 <p>クスノキ(市の木)</p> <p>葉の色 葉の色 幹の色 幹の色</p>	
 <p>深大寺</p>	<p>木材の色</p> <p>瓦の色</p> <p>土壁の色</p>	 <p>春の野川</p>	<p>菜の花の色</p> <p>葉の色</p> <p>土の色</p>		





- 外壁の色
- 外壁の色
- 木の色

落ち着いたある集合住宅



- 地藏の色
- 前掛けの色
- 木板の色

お地藏さん



- 石畳の色
- 木部の色
- 葉の色

深大寺周辺の飲食店



深沙堂の湧水

- 葉の色
- 苔の色
- 石の色
- 水の色



味の素スタジアム

- 空の色
- 葉の色
- 施設の色



仙川商店街

- 看板の色
- 舗装の色
- のぼりの色



住宅街の緑道

- 葉の色
- 幹の色
- 舗装の色



布多天神社

- 鳥居の色
- 葉の色
- 幹の色



瀧坂道標

- 道標の色
- 道標の色
- 葉の色



調布駅周辺

- 空の色
- 外壁の色
- 舗装の色



緑の多い住宅地

- 外壁の色
- 屋根の色
- 葉の色



カカシがある水田

- 稲の色
- 土の色
- カカシの色



電車が走る風景

- 踏切の色
- 車両の色
- 車両の色
- 車両の色



国分寺崖線

- 葉の色
- 葉の色
- 土の色



## 2 市が目指す景観まちづくり

市では、景観まちづくりを進めるうえでの基本的な考え方や方向性を示すものとして、平成24年4月に「調布市景観基本計画」を策定しました。また、平成25年6月には景観行政団体となり、景観まちづくりに取り組んでいます。

調布市景観基本計画においては、景観まちづくりの基本目標を次のように定めており、景観の骨格となっている国分寺崖線や多摩川・野川などの豊かな自然環境と、駅周辺などのにぎわいのある都市空間、落ち着いた風情を感じる街並み、のどかな農の風景など、地域固有の景観の魅力を市民と共有し、景観価値の向上に取り組みます。

### □基本目標

## 「人と自然が織りなす ほっとする暮らしがみえるまち 調布」

「人と自然が織りなす」とは、調布のまちが緑や水辺などの恵まれた自然環境のなかで、市民が生活し活動してきたことにより、自然環境と都市環境がパッチワークのように織りなしながら、調布らしい景観をはぐくんできた姿を示すものです。また、「ほっとする暮らしがみえるまち」には、住む人や訪れる人をほっとする気持ちにさせてくれるまちでありたいという思いを込めて、目指すべき目標像を「人と自然が織りなす ほっとする暮らしがみえるまち 調布」としました。

また、基本目標を踏まえ、景観特性などに応じた次の5つの景観まちづくりの基本方針を掲げています。

### □景観まちづくりの基本方針

- 1 まちの骨格を際立たせる自然環境の景観価値の向上
- 2 市民生活を支える基盤となる都市施設の魅力的な景観の形成
- 3 地域の歴史文化を感じさせる景観の熟成
- 4 地域コミュニティの存在を感じるほっとする暮らしの景観の育成
- 5 市民のいきいきとした活動がまちの表情を豊かにする景観まちづくり



経済社会の成熟とともに、人々の価値観も量的充実から質的向上へと変化し、地域の歴史や文化に根ざした美しい街並みや良好な景観に対する人々の意識も高まってきました。景観まちづくりは、市民、事業者、市が協働して継続的に取り組む課題です。そこで、景観形成について色彩の面で、広く共通に話し合い、理解を促進するため、このガイドラインを作成しました。

### 3 色彩を活用した景観づくり

景観まちづくりの基本方針を受けて、建物などの色彩を活用した景観づくりに取り組むことにより、良好な景観形成の実現を目指します。

#### 暮らしの中に豊かな自然の彩りが映える色彩誘導

国分寺崖線などの緑、開放感のある多摩川、市街地を流れる野川など、身近に感じることのできる自然は、落ち着いた色彩の建物などと相まって、住む人、訪れる人にうるおいとやすらぎを与えます。崖線の樹林や街路樹の四季の変化、野川沿いの桜並木や菜の花、多摩川に沈む夕日など、生きた自然の存在感や四季の豊かさが一層鮮やかに感じられるよう、周辺の建物などの色彩をより落ち着いた色調でまとめていくことなどにより、豊かな自然の彩りを生かした、うるおいや季節感のある景観形成を目指します。



甲州街道のケヤキ並木



身近に農を感じる生産緑地



人々が憩う野川公園



四季を通して変化し続ける国分寺崖線の緑



空の広がりを感じる多摩川

#### 地域の歴史・文化の継承を感じさせる色彩誘導

市内には、深大寺や布多天神社など社寺仏閣、鎮守の森、先人の土地への思いを感じる農の風景など、地域の歴史・文化を今に伝える景観資源が多くあります。地域の象徴となっている歴史的・文化的景観資源の色彩を尊重し、同様の色彩や素材を使用することや、景観資源より落ち着いた色彩とすることなどにより、地域の歴史や文化を継承する景観形成を目指します。



鎮守の森の中にある布多天神社



のどかな田園風景



太古の面影を残す下布田遺跡



## 住む人の思いが伝わる住宅地の景観づくり

市内には、立地や市街地の形成時期に応じて多様な住宅地の景観があります。より多くの市民の方に色彩計画を含む景観づくりの意義について理解していただき、そのうえで景観づくりに取り組んでいただくことで、住む人が愛着を持ち、住む人の思いが伝わる、良好な地域コミュニティを感じる住宅地の景観形成を目指します。



色やデザインの統一により、落ち着いた住宅地



玄関前の花壇が街並みに彩りを添える住宅



緑があふれる多摩川住宅

## まちの魅力となる活気やにぎわいを感じる色彩誘導

駅周辺の商業地や幹線道路沿いなどでは、周辺から突出するような派手な色彩を用いた建物や屋外広告物など、街並み景観の調和を阻害しているものもみられます。駅周辺の商業地などでは、活気やにぎわいを創出するとともに、その中にも一定の秩序が感じられる、魅力的な都市景観の形成を目指します。そのため、周辺から突出する色彩などについては適切に誘導し、うるおいとやすらぎを感じられる景観形成に向けて調整を図ります。



新たな景観の創出が期待される調布駅周辺  
(イメージ)



多くの商店が並ぶ旧甲州街道



飲食店が多く並ぶにぎわいのある天神通り

## ともに学び、考え、整えていく景観づくり

色彩は、一目見て確認できることから景観形成において重要な要素ですが、人によって好み異なるうえに、周辺景観との調和を図るための効果的な色彩の検討については、専門的な知識や技術が必要とされます。景観法や景観条例に基づく届出制度による規制誘導のみでなく、身近な景観要素である色彩をもとに、市民、事業者、市の協働により、住宅や商店など身近な景観のあり方をともに学び、考えます。



色彩をテーマとしたワークショップの様子



市民検討会の様子



市民が選んだ調布の好きな景観